

ヘリ親 과보호

「ヘリコプター・ペアレント」という言葉を知っているだろうか。子離れで
かほご
きない過保護な親のことを指す。まるでヘリコプターのように大人になった
せんかい
子どもの頭上を旋回し、我が子の危険を察知するとすぐに干渉してくる様か
らこの名前がつけられた。1990年ごろにアメリカの医師が使い始めた言葉で、
通称「ヘリ親」というのだが、日本でもこの「ヘリ親」を持つ女性が急増し
ているようだ。それにともない、その女性と交際する男性の被害も増えてる
らしい。



女性にとっても、男性にとっても母親は特別な存在。
しかし、必要以上に親子の距離が近い関係は注意が必要かもしれない

Case 1

会社員の男性Yさん（26歳）は、同じ職場で働く実家暮らしの女性（25歳）と
半年間の交際をしている。デートのたびに彼女の母親から帰宅命令が入る。
彼女がYさんを優先させる行動に出ると「高熱で倒れた」「お父さんと別れる
かもしれない」など電話してきて、母親は娘の気を引こうと必死。突然「家
にちじょうさはんじ
族で親戚の家に行く」とデートをドタキャンさせるのも日常茶飯事だそうだ。

Case2

会社員の男性Mさん（24歳）は、飲み会で知り合った美容師のSさん（22歳）と交際中。ある日Mくんのもとへ、Sさん宛ての請求書が送られてきた。Sさんに聞いても「詳しくはママに聞いて」とそっけない。仕方なく彼女の母親に連絡したところ、「Sはお給料少なくて大変だから、助けてあげてね」と悪びれない。Mさんは丁重^{ていちょう}に抗議すると、母親の態度は一変。「あっそう。

甲斐性^{かいしょう}のない子だねえ」と一方的に電話を切られ、再び電話で「Sの面倒も見られないなら別れなさい」と言われたという。挙げ句^{あぐ}、彼女から「ママが別れなさいってうるさいの……」と事実上の別れ話を切り出され、逃げるように身を引いたそうだ。

会員1万3000人を超えるコミュニティサイト「恋人・夫婦仲相談所」を運営するプロフェッショナルアドバイザー・二松まゆみさんに、「へり親」による被害・相談は増えているか聞いてみた。

「ここ4、5年とくに増えてきていますね。少子化の影響で一人っ子や核家族が増加したため、親は一人の子にすべての愛情を注ぐようになっています。親の愛情を一身に受け、苦労や挫折を意図的に排除された子どもは成人後も親に依存するようになるんです。また、夫婦仲が冷えている母親は、寂しさを紛らわすため子どもに傾注^{けいちゅう}し、『へり親』化する傾向が非常に強いんです」

単語と語句

- モンスターペアレント：学校や教育委員会に対して、理不尽な要求を繰り返す保護者をモンスターに例えた言葉。
- 気にかける：心にとめて、考える。心配する。
- 例)いじめられている子を気にかける。
- 気をひく：相手の関心をこちらに向けさせる。 例)相手の気をひく発言をする。
- ドタキャン：決行直前に不参加を申し入れること。もはやスケジュール調整がつかないような土壇場でキャンセルすること。
- そっけない：思いやりや温かさが感じられない。 例)そっけない態度。
- 悪びれる：恥ずかしがる。 例)悪いことをしたのに、悪びれず答える少年。
- 一変(いっぺん)：すっかり変えること。 例)態度が一変する。
- 甲斐性(かいしょう)：物事をやりとげようとする気力や根性。
例)甲斐性のある息子。
- 挙げ句(あげく)：結局。
- 丁重(ていちょう)：礼儀正しく、手厚いこと。

フリートーク

1. 韓国では少子化後、どんな変化が起きていると思いますか？

2. 過保護かほごについてどう思いますか？